記念館会報　Vol. 32　　2021. 6. 16

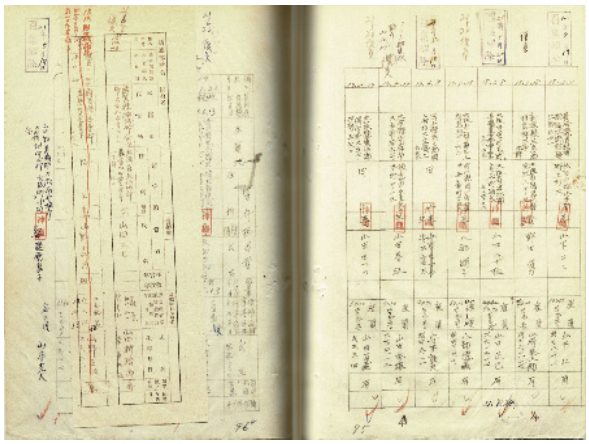
NPO
中帰連平和記念館
CHUKIREN HEIWAKINENKAN

不二出版から『防疫給水部 留守名簿』寄贈

不二出版から船橋会長、小林社長、編集部の乗木さんの 3 人が 3 月 2 日に来館下さり、下記の資料を寄贈戴きました。

この膨大な 731 部隊留守名簿は、西山勝夫滋賀医科大学名誉教授が、政府相手に繰り返し繰り返し、粘り強く粘り強く請求して入手したものです。その熱意は驚嘆します。留守名簿のマイクロフィルムは 2011 年度から 5 年計画で厚生労働省から国立公文書館に移管する作業が進行していました。そのなかで繰り返し請求した結果、18 年 1 月にようやく入手したものです。そして、西山先生は考えました。「関係者による調査研究に一刻も早く資するためには、翻刻と共に、復刻版の早期刊行が不可欠」だと。先生から依頼された不二出版は、以下の５巻の刊行を決断し、2018 年から刊行しはじめました。5 巻というのは、関東軍防疫給水部（７３１部隊　ハルビン）全 2 冊、北支那防疫給水部（１８５５部隊　北京）1 冊、南方軍防疫給水部（9420 部隊、シンガポール）1 冊、関東軍軍馬防疫廠（100 部隊　長春）1 冊（未刊）です。

この 731 部隊の基礎史料の入手と刊行の意義は果てしなく大きなものです。早速、これによって 731 細菌戦部隊関連の研究は今後飛躍的に発展するでしょう。加藤哲郎氏はこの留守名簿にある日本人医師の氏名を、近藤昭二氏が提供した七三一部隊の同期会の『精魂会名簿』などとクロスすることによって、戦後戦犯免責された七三一部隊の医師が、医科



目　　次

・「不二出版」来館、資料寄贈 ・・・・・・ 1
・ABC 企画から「731 資料」寄贈 ・・ 2
・「信愛塾」スタッフ来館 ・・・・・・・・・・ 3
・「フィールドワーク」報告書 ・・・・・・ 3
・群馬県前橋市から元兵士来館 ・・・・ 4
・連載「記念館資料室から」 ・・・・・・ 4
・「平頂山事件」とは ・・・・・・・・・・・・・・ 6
・「一枚の写真」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
・橋本勝さんの「風刺漫画」 ・・・・・・ 6

大学、病院勤務、開業医、医療産業、陸上自衛隊などにはいり復権したことを個別具体的に示しました。同封の表「七三一部隊医師の戦後復権」を御覧ください。今後、この留守名簿の入手と刊行によって、７３１細菌戦部隊関連の研究は飛躍的に発展することは間違いないと確信しています。

改めて西山先生の留守名簿 731 部隊の入手という偉業に乾杯！！　　（松村高夫）

（「不二出版」の皆さん）

ABC企画から「731資料」寄贈

『侵華日軍第七三一部隊罪行実録』と題された全６０巻の史料集が平和記念館に到着し、収納されました。ABC 企画委員会の寄贈によるものです。この『罪行実録』は２０１５年７月に一挙に刊行されたものです。中国のハルビン郊外平房にある７３１部隊陳列館が刊行したもので、主編は金成民館長となっています。

私は２０１５年夏、偶々池辺晋一郎指揮する「悪魔の飽食を歌う合唱団」のハルビン公演に参加したときに、平房でのシンポジウムにも参加しました。シンポジウムの会場の受付の机に、刊行されたばかりのこの『罪行実録』全６０巻がズラリと２メートル程並べられているのを見てびっくり仰天！その時は時間がなく、実録の中身はチラリとみただけでしたが、アメリカのダグウェイ基地で１９９０年に NHK の取材班が見つけた Q　Report の英語版２巻がありました。翌９１年４月、２日間にわたって放映されセンセーションを起こした７３１のドキュメンタリー・フィルムのなかでも、この Q　Report は強烈な印象を与えました。というのも、「１９４０年新京ペスト流行」のときに石井四郎が防疫隊と称してハルビンから新京にやってきました。この新京のペスト流行は、もともとは７３１部隊が１９４０年６月初めに農安にペスト感染ノミを地上で撒き、農安で４００人のペスト患者がでて、農安から６０キロ程離れた新京（今の長春）に伝播してきたものでした。石井防疫隊は新京駅近くの国防会館を本部にして、一ヶ月程防疫活動を行い、死亡したペスト感染者の臓器を切り取りプレパラートにして平房に持って帰り、分析しました。人体の臓器ごとに色が付いていましたので、視覚的にも印象的な TV でした。この石井の防疫隊は、１ヶ月ほど滞在して、未だペストが流行しているのに、必要な臓器と新しいペスト菌株を入手すると平房に帰ってしまうのです。まるで広島に来た ABCC 委員会のようでした。

（ABC 企画寄贈の「731 資料」）

もっと驚いたのは、Q 報告が中国語に訳された２巻が別にあり、解剖図は細かい臓器まで中国語になっていることでした。シンポジウムが始まり、それ以上はみることができませんでした。それが今度は中帰連の平和記念館でじっくりみられるわけです。

この６０巻には、７３１部隊についての基本的一次史料、即ち細菌戦部隊命令・文律集、７３１部隊兵要地誌、関東軍、華中軍、南方軍防疫研究報告、南方軍防疫給水部業報、戦時給水類、予防免疫類、陸軍軍医学校防疫研究報告等々、今まで発見された史料のオリジナルがほぼ網羅して収められています。今後７３１部隊関連の研究にはこれだけ１次史料が揃っているのだからコレを使っただけでも、凄い研究成果がでてくることでしょう。　　（松村髙夫）

横浜のNPO「信愛塾」スタッフ来館

横浜市で在日外国人の子どもたちの教育生活相談センター「NPO 信愛塾」を 42 年も運営してる大石文雄理事などスタッフ 4 人が 3 月 24 日来館下さいました。

当日は午前中に「丸木美術館」を訪ね、午後から来館下さいました。以前、中帰連神奈川支部の絵鳩毅さんの証言を聞き、既に「中帰連」は承知していたとの事でした。

絵鳩さんは東京帝国大学で哲学を学び文部省に入省しました。しかし「尊敬する恩師の図書検閲など出来ない」と、文部省を辞し、地方の女学校の教師になりました。

当時、そんなリベラルな人は殆ど居ませんでしたが、そんな絵鳩さんも中国人を行軍の先頭に歩かせる「人間地雷探知機」などを行いました。絵鳩さんはこの様な実体験を各地で何回も証言し 101 歳で亡くなりました。

来館の皆さんは「体験者の話を聞きたい」との事でしたが、中帰連に限らず戦闘体験者は既に 95 ～ 100 歳で不可能の状況です。当日は中帰連、管理所、記念館などの説明の後に、映像を観て頂きました。記念館には本の他「中帰連」を含め戦争関連の映像が 100 本以上あり、その一部「目録」はＨＰにもアップしてあります。早速、入会やカンパも戴き有難う御座いました。秋にバスで 20 名ほどの「フィールドワーク」で来館下さるとのことで、楽しみにお待ちしております。

（「信愛塾」の皆さん）

フィールドワーク『報告集』届く

都内の「『慰安婦』問題とジェンダー平等ゼミナール」（代表：吉川春子・元参院議員）の皆さんが、昨年 10 月に吉川代表を含めコロナのため 15 人の制限で来館下さったことは既に報告（会報 30 号）させて頂きました。

この度、そのフィールドワークの立派な 8 頁カラーの記念館特集の『報告書』（会報に同封）が届きました。参加者の「感想」

を含め記念館のご紹介も下さり有難う御座いました。

このジェンダーの会からも毎号『会報』が届き、他の友好団体の『会報』と共に閲覧室で公開させて頂いております。

群馬県前橋市から元兵士来館

過日来館された前橋市の石田正人さんが、改めて 4 月 10 日に戦争体験者の小池安好さん（95 歳）とご子息を同伴し再来館下さいました。

小池さんは記念館の存在は知らず、石田さんから話を聞き「是非行きたい」とのことで来館下さいました。

小池さんは開拓団で満州へ渡り 44 年 10 月に現地招集を受け、敗戦も知らず数週間ソ連軍と戦闘体験しました。

幸い家族は全員無事帰国出来ましたが、小池さんは 4 年間のシベリア抑留後帰国しました。しかし、兵役期間が足りず恩給は出ず、故郷の赤城山の麓で再び開拓し農業に励みました。今も記憶もしっかりしお元気で車の運転もしているそうです。「戦争の話が被害ばかりなことに疑問を感じていた」とのことでした。

「中帰連・記念館」の話の後、同席した細川理事が聴き役になり貴重な体験を 1 時間ほどお聞きし録画させ戴きました。

石田さんは現地で市民運動をし、小池さんも講演したり中国を訪問し新聞報道されています。小池さんは早速「会員登録」下さいました。

連載　記念館資料室から第25回

生活状況と戦争の危機をどう繋げるか

石田隆至（「中帰連に学ぶ会」事務局）

『前へ前へ』第 15 号は、1959 年 1 月 25 日の発行です。「年頭のことば」は、本部の感慨を伝えています。

「『よくいって 1 年半、せいぜい 2 年も続けば、あとはバラバラになって自然消滅するだろう・・・』世間の人は中連の発足当時こうみていました。実際、戦後多くのいわゆる引揚者の団体はできましたけれども、そのほとんどがこういう経過をたどっていたのです。ところが中連はその予想を裏切って、第 3 年目を迎えながらますます健在です。本部のよびかけに応じて昨年末から新年にかけての会費納入率は中連発足以来最高の成績に達し、新年にあたって本部を通じて個々の会員から全国の会員に寄せられたあいさつ状は、また年来の最高を示していました。」

とはいえ、社会や生活面での苦境は続いていました。

「職場で中連の名を出すと上役からにらまれる・・・良心的に行動しようとすると、すぐ周囲から白い眼でみられて生活がしにくくなる・・・仲間との誓いを決して忘れているわけではないが、仕事と生活に追われて思うように活動できない・・・」

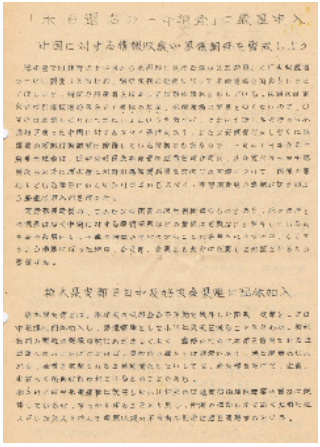
他方で、「新年早々、岸〔信介〕政権によって、日米安全保障条約の改定がもくろまれて」いることは「戦争政策の〝決定版〟」と懸念しています。「中連はどの角度からみても、安保条約改定には反対して戦わなければならない立場にあり、これが今年の最も重要な課題の一つであります。」

学習資料として掲載されている文章の中にも、「岸政権のこのようなくわだてを許すならば、（略）わが国の独立をおくらせ、中国を敵視する政策はますます露骨になる」と記されています。米国と台湾による中国本土への攻撃が差し迫った危機でした。

会員の社会・生活状況の困難と、台湾海峡における戦争の危機という２つの課題をめぐって本部は、前者の解決のためにも後者が「基本的な要件である」とより重視する考え方を示していました。

会報の後半に掲載されている北海道、奈良、山口、広島の支部報告でも、この２つの課題が取り上げられています。各支部では、本部とは逆に前者の重点が大きくなっています。その中で、広島支部は両者の関係性を根本的に捉え直そうとしています。

この頃の広島支部は、支部報もあまり届かない状態が「約３ヶ月ばかり続」き、「浮舟的状態」にあったと言います。これは、「実は中連の今後の方向をどこに求め、中連組織の一環としてどのように前進しようかという転換点に立ったこと」で、「私たち支部もこのために迷っている」が故でした。この停滞をもたらしたのは、「具体的な客観情勢の急激な変化」、つまり、「台湾海峡問題が大きく世界の眼を据え始め、呉、岩国、江田島基地からは日夜台湾向け弾薬の積み込みがはげしくなり、内には警職法の国会提出というファシズム化への方向をはっきりと表面化し始めた」ことでした。地元広島が戦争の危機に直結していたのです。



連携関係にあった日中友好協会も「すでに点火された条件下で（戦争への道）例えば日中友好をかち取ろうとするならば、その諸政策の根本に反対しない限り（略）、日中の友好も得られぬのではないか」「今までのようにただスローガンを唱えていたのでは間に合わぬ」と考え、それまでとは「異色ある」現実的な闘争を呼びかけました。

広島支部はこれにただちに同調するわけではなく、中帰連独自の路線があることも理解していました。「吾々はあくまで戦争に反対し日中友好のために生活を守る戦いを通じて発展さしていくべきであって、生活に直接悪い影響があるとも考えられる政治問題等には今までも介入しなかったし、将来もそれを唱え、それを行動に表すことは困難であって、それは個人の問題として任すべきであり、会の方向（略）は今まで通りでよいのではないか？」こうした会内の声を踏まえつつ、それでも「台湾問題をぬきにして日中の国交回復あるいは友好は考えられず」、迷いながらも支部員にこう呼びかけます。「現在まず隊内を整頓しその過程にこの課題を提起して、生活擁護、相互援助のなかで、お互に話し合って下さることをお願いするわけです」「ただ、手をつなごう・・・の状態から、今一歩ふみ出して、目的のために手をつなごう。そのことが直接得にはならず眼には見えなくても、将来各人の利益に合致するだろうことを確信して皆様に提案いたします」。

直面する２つの大きな課題のどちらかではなく、どちらも重視して取り組んでいく方途を見出そうとしています。これは、この後の中帰連が向き合い続ける課題です。

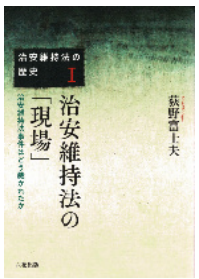
「平 頂 山 事 件」と は

撫順と言えば露天堀の「撫順炭坑」が有名ですが、当時、日本が接収していました。1931 年 9 月 15 日その撫順炭坑を抗日ゲリラが襲い日本側に死傷者が出ました。

関東軍は住民がその「情報」を知らせなかったと、翌日「写真を撮る」と住民全員を一箇所に集めました。しかし、三脚の黒い布を取るとカメラではなく、機関銃が一斉に火を噴き住民は射殺されました。まだ生きていた人たちは次々と銃剣で刺し殺されました。その後、崖にダイナマイトを仕け 3000 人余りの遺体を埋めした。731 部隊と違って、この事件では数人の生存者・証言者が居ました。（記念館は管理所から数キロの場所にあります）

戦後、中国政府はその一部を掘り起こし「平頂山惨案記念館」として保存展示しています。幼子を抱いた親子の遺骸もあります。この様な場所は「万人坑」（人捨て場）と言われ中国各地に在ります。

寄贈図書から



荻野富士夫・著
（小樽商科大学名誉教授）
発行：六花社
発売：2021．5．25
定価：2750 円

一 枚 の 写 真

映画にもなったラストエンペラー・愛新覚羅溥儀も弟の溥傑と共に、ソ連から解放された後、戦犯（中帰連）たちと共に、「撫順戦犯管理所」に収容されていました。この写真は「特別軍事法廷」での溥儀（左）の写真です。

橋本勝さんの「風刺漫画」

『地球温暖化 生き物の命は・・・』

『NPO 中帰連平和記念館』
〒 350-1175 埼玉県川越市笠幡 1948-6
TEL&FAX：０４９－２３６－４７１１
E-mail：npo-kinenkan@nifty.com
ＨＰ：http://npo-chuukiren.jimdo.com/
ＭＬ：npo-kinenkan@freeml.com
郵便振込口座名「NPO 中帰連平和記念館」
振込口座 ：００１５０－６－３１５９１８
開館日：「水、土、日」（10:30 ～ 16:30）
（ご来館はなるべく事前にご連絡下さい）